

ブナの里

黒松内町添別のブナの樹に芽吹いたブナの新緑の葉

写真提供：黒松内町ブナセンター

- | | |
|-----------------------------|-------|
| ◇ 2025年度 法人事業計画 | P2～3 |
| ◇ 法人各事業所の2025年度事業計画 | P5～10 |
| ◇ 2025年度 辞令交付式・新任職員研修 | P11 |

2025年度事業計画

社会福祉法人黒松内つくし園 理事長 大代 貴輝

1 事業方針

ガバナンス強化や事業運営の
透明性向上、財務規律の強化、
地域での公益的取組の充実など
が社会福祉法人に求められてい
ます。制度に対応した組織作り
と内部統制・本部機能強化に取
り組んできましたが、本部集中
化・業務効率化をさらに推進し
てまいります。本年度は、適切
なケアの提供と利用者サービ
ス・満足度の向上を目指し、虐待
根絶に向けて役職員一同が一丸
となって取り組んでまいります。
また、各福祉事業の今後の方向
性の検討と方針決定を行い、健
全経営へ向けた取り組みをさら
に進めてまいります。そして、
地域福祉向上と社会貢献、SD
Gsへの取り組みを進め、社会
福祉法人の使命を果たすため、
役職員一丸となって事業運営に
取り組んでまいります。

こうした状況の中、当法人は
以下の方針のもと事業経営に取

り組みます。

- * 法人基本理念・倫理綱領に沿った事業展開を行う。
- * 利用者・職員・地域住民の幸せを実現するため事業を行う。
- * 利用者サービス・満足度向上と虐待根絶への取り組みをさらに強化する。
- * 法人一体運営と本部集中化・ICT化・業務効率化をさらに推進する。
- * 法人事業の健全経営に向けて、各事業の今後の方針の検討・決定を行う。

2 本年度の運営方針と取り組み

- (1) 利用者主体の良質なサービスと適切なケアの提供に努め、施設サービス・利用者満足度の向上を図る。
- (2) 各福祉事業の将来の方向性と事業方針を検討・決定し、健全経営へ向けて法人一体となって取り組んでいく。
- (3) 俱知安地区事業休廃止後、次

のステップへ向けての方向性と
施策を検討し、今後の運営体制
への取り組みを行っていく。

- (4) 介護保険・老人福祉サービス
事業の今後の運営体制を検討し、
方針決定と達成に向けての協議
を進めていく。
- (5) 人材確保・定着と育成、働き
やすい職場環境づくりと職員へ
のサポート体制強化への取り組
みをさらにやっていく。
- (6) 本部機能強化・集中化、事務
ICT化・業務効率化への取り
組みをさらに推進していく。
- (7) D&Iの推進とSDGsへの
取り組みを進め、企業価値向上
と発信力強化へ向けた組み
を継続する。
- (8) 地域福祉の推進と社会貢献事
業への取り組みを継続して実施
する。

3 本年度の重点目標（抜粋）

- (1) サービスの質の向上と利用者
満足度アップ
- ① 基本理念と法人倫理綱領に掲
げる「利用者主体」「自立支援」
に向けた良質なサービス提供へ
の取り組みを全事業所で継続。
- ② 法人虐待防止宣言のもと虐待

防止、不適切な支援防止を徹底
し、虐待発生件数ゼロに向けて
取り組む。

(2) 法人経営健全化への適正な事業所運営体制確立

- ① 2施設で新施設長が就任。新
たな事業所運営体制を確立させ、
利用者サービスの継続・良化と
健全経営を目指し取り組む。
- ② 黒松内町の委託を受け、4月
1日より「黒松内町地域包括支
援センター」の運営を開始。地
域福祉のさらなる向上に取り組
んでいく。
- ③ 電気・燃料費や介護・衛生用
品、消耗品等の物価高騰等は著
しく経営環境が厳しい中、法人
健全化に向けてコスト削減やよ
り安価な物品確保といった経営
努力を継続実施する。
- ④ 俱知安在宅事業と就労支援事
業所陽だまりを昨年度で廃止。
今後の俱知安地区事業方針と次
のステップへの検討をプロジェ
クトチーム主導で行っていく。
- ⑤ 法人各事業所の経営状況に基
づいた利用定員の見直しと適正
人員配置、施設の活用方法等
について検討していく。

⑥緑ヶ丘ハイツの経営健全化のため、1フロア利用者40名での運営体制を4月よりスタート。継続的な利用者・職員確保により稼働率を高め、効率的かつ運営健全化を目指していく。

⑦養護老人ホームの経営難は著しく、緑ヶ丘老人ホームでの定員の在り方と今後の事業展開・運営体制について関係機関との協議を進め方針決定を行う。

⑧黒松内町の少子化加速により、4月から黒松内保育園の保育定員50名を40名に減員する。

(3)人材確保・育成と職員待遇・労働環境改善への取り組み強化

①法人各事業所の適正配置・人員計画に基づいた採用活動を行う。法人本部人材センターを廃部とし、各施設と法人本部人事部が共有しながら適正な採用活動を展開していく。

②4月1日現在、新卒9名と既卒者6名の計15名を採用し、職員合計435名でスタート。

③外国人介護人材について、特定技能ミランマー人12名が8月以降着任となる予定である。

④職員のメンタルケアのため、

内部通報窓口に加え外部相談窓口を設置。職員への「なんでも相談窓口」と各種ハラスメント、虐待事案への相談も受け付け、職員へのサポートとハラスメント・虐待防止に繋げていく。

⑤育児・介護休暇法改正に対応し、仕事と育児・介護を両立できる柔軟な働き方を実現するための対応と雇用環境整備を行う。

⑥介護ロボット・見守りセンサー、タブレット型介護支援ソフトなどのICT事業導入を推進し、職員の負担軽減と利用者サービスの向上、労働環境改善への取り組みをさらに進める。

(4)D&I・SDGs推進と発信力強化

①男女不平等・女性差別やハラスメントなどを排除したジェンダーレスへの取り組みを具現化していく。

②D&Iを高めて変化を促す組織風土づくりを推進するとともに、多様化した職員の活躍を促す能力開発、評価の仕組みづくりを検討していく。

③4月見込みでベトナム人8名、カンボジア人9名、インドネシ

ア人22名、ネパール人1名、タイ人1名の合計41名の外国人が在籍。多国籍の職員が介護・障がい福祉サービス業務に従事し、利用者や職員と交流を深めている。多文化共生社会への取り組みを法人・事業所で協力してさらに推進する。

(5)法人本部集中化・業務効率化のさらなる推進

①法人本部集中化推進のため、法人本部総務・財務・人事部がその役割と専門性を高め、各事業所と連携して適切且つ円滑な業務執行を行っていく。

②財務会計システムの移行が完了したことで、様々な会計処理の法人本部一括仕訳実施により、各事業所財務会計処理の負担軽減と正確な仕訳入力、効率性向上をさらに推進していく。

③人事・給与システムの運用を本格的に開始。給与・労務管理業務の人事部集中化をさらに推進。勤怠管理アプリ更新の検討も行い、さらなる業務効率化を目指す。

④社会保険の法人一本化を完了。労働保険料や源泉所得税・住民

税、退職共済関連業務・支払の本部一括管理を進め、人事・財務業務効率化を促進。

(6)地域貢献事業の推進

①法人各事業所で社会貢献事業基本要綱をもとに公益的取組を実施する。また、地域福祉のさらなる推進と地域住民・利用者・職員の交流を図る。

②黒松内町・俱知安町・京極町・泊村での地域貢献事業の実施を継続し、地域住民と施設利用者・職員との交流を深める。

③一時保護委託の受入れ、土曜児童保育、生きがいデイサービス事業、配食サービス、奨学資金支給制度等の社会貢献事業を継続していく。

④ボランティア・インターシブ・施設見学、就労体験・福祉実習・利用体験等の受け入れを積極的に行う。

⑤泊村むつみ荘で、高齢世帯向けの配食サービスを村から受諾し実施。平日の夕食の提供と利用者の安否確認を行い、泊村と協力して地域住民への食の提供と地域福祉向上への取り組みを行う。

施設長・副施設長名簿

社会福祉法人黒松内つくし園

2025年4月1日 現在

施 設 名		職 名	(ふ り が な) 氏 名	就任年月日	
児童養護施設	黒松内つくし園	施設長	ふじ 田 つよし 藤 田 剛	2023年4月1日	
地域小規模児童養護施設	ホームすぎな				
子育て短期支援事業	黒松内つくし園				
養護老人ホーム	緑ヶ丘老人ホーム	施設長	おか ひさ けん いち 岡 久 健 一	2023年4月1日	
短期入所生活介護事業					
特定入居者生活介護					
訪問介護等事業					黒松内つくし園ホームヘルパーステーション 休止中
包括支援センター事業					黒松内町地域包括支援センター
居宅介護支援事業					黒松内つくし園居宅介護支援事業所
老人ディサービス事業					黒松内町ディ・サービスセンター
福祉型障害児支援施設	しりべし学園	施設長	と 富 がし こう き 富 樫 孝 貴	2021年4月1日	
短期入所事業					
移動支援事業					
児童ディサービス	しりべし学園児童ディサービス	常務理事 ・施設長	あそ べ 部 ま すみ 遊 部 真 澄	2018年4月1日	
日中一時支援	しりべし学園日中一時支援				
障がい者支援施設	しりべし学園成人寮				
短期入所事業	しりべしワークセンターセオス いずみホーム	常務理事 ・施設長	あそ べ 部 ま すみ 遊 部 真 澄	2018年4月1日	
就労支援事業					
共同生活援助					
特定相談支援事業所					黒松内つくし園特定相談支援事業所（障害児）
特定相談支援事業所	黒松内つくし園特定相談支援事業所	施設長	たか はし ひで とし 高 橋 英 俊	2025年4月1日	
障がい者支援施設	後志リハビリセンター				
短期入所事業					
特別養護老人ホーム	緑ヶ丘ハイツ	理事・施設長	よし だ たけし 吉 田 剛	2021年4月1日	
短期入所生活介護事業					
就労支援事業	羊蹄セルブ	施設長	おお せこ たく や 大 迫 拓 哉 (兼務)		
福祉ホーム	羊 蹄				
共同生活援助	つくしホーム				
生活支援ハウス	和				
無料又は低額介護老人保健施設	湯の里・黒松内				
ユニット型介護老人保健施設	湯の里・黒松内	総合施設長	なか た はる お 仲 田 治 夫	2024年11月1日	
短期入所療養介護		施設長	しま ひろ し 嶋 宏 志	2023年4月1日	
通所リハビリテーション					
訪問リハビリテーション					
養護老人ホーム	慶和園	理事・施設長	しぶ や つよし 澁 谷 剛	2015年4月1日	
短期入所生活介護事業					
特別養護老人ホーム	ユニットケア慶和園	副施設長	やま なか さち よ 山 中 幸 代 (兼務)	2020年4月1日	
短期入所生活介護事業					
短期入所生活介護障がい					
養護老人ホーム	泊村養護老人ホームむつみ荘	施設長	の ぎき さち お 野 崎 幸 男 (兼務)	2025年4月1日	
短期入所生活管理指導事業受託事業					
特別養護老人ホーム					
短期入所生活介護事業					
認定こども園	認定こども園黒松内保育園	施設長	さ とう み ず き 佐 藤 美 次 喜	2020年4月1日	
	総務部	部 長	さ さ き つかさ 佐 々 木 司	2023年4月1日	
	財務部	部 長	おか だ かず ゆき 岡 田 一 之	2023年4月1日	
	人事部	部 長	おい きり さ お り 追 切 さ お り	2023年4月1日	
		次 長	く どう あつ こ 工 藤 敦 子	2025年4月1日	
		事務長	お がわ のぶ お 小 川 展 生	2023年7月1日	

(福)黒松内つくし園各事業所 2025年度事業計画

「たくさんの笑顔を・・・」

く児童養護施設 黒松内つくし園く

今年度は、ここ数年の課題となつている人材確保について、関係機関との連携や実習生への積極的なアプローチ、各学校へのボランティア参加の呼びかけ等に努め、永年勤続できる職場づくりや人材育成のための組織体制の見直しを図つてまいります。

小規模化に向けては、計画の見直しを行い、小規模児童養護施設の実現に向けて、人材確保の課題も考えながら検討してまいります。

◎今年度の重点目標

1. 権利擁護・虐待防止に向けた取り組みの継続と支援内容の見直し(園内外研修、意見箱・アンケート実施、委員会活動充実させる) 2. 小規模化・家庭的養育推進計画の見直し、計画案の作成 3. 働き方改革への対応、人材確保に向けた取り組みを実施する(勤務体制・勤務時間の見直し、業務改善、行事等の見直し、学校訪問、ボランティア

アの案内等) 4. 安全・安心な生活への対応(意見箱・子ども会アンケート等を通しての権利擁護の推奨、感染予防対策、自然災害対策等) 5. 地域貢献活動の充実(奨学金制度の継続、実習生や職場体験の積極的な受け入れ、町行事への積極的な協力等) を掲げ取り組んでまいります。子どもを取り巻く環境は大きく変化をしていきますが、子ども達が安心・安全な生活が送れるように職員一同で取り組み、子ども達と職員の笑顔が絶えない施設運営を心掛けてまいります。



「子どもの幸せ 未来に種をまこう」

く認定こども園 黒松内保育園く

認定こども園黒松内保育園(保育園型)は、保育定員を40名に変更し教育を含め55名の定員でスタートします。黒松内町の就学前の子ども達を養護・保育する唯一の施設で、教育・保育の両面の機能を生かし「個別の発達に応じた10の姿」を目指し、自発性を大切にする保育をこれまで以上に進めます。

「今年度の重点目標」

1. 保育指針・幼稚園指導要領 保育要領に則った保育課程のもと保育実践を進めます。 2. 感染予防には、園児の生活保障が出来るよう安心安全な対策を推進します。 3. 黒松内町の「人・物・自然」の資源を森のようちえん・運動教室・栄養教室・英語教室等で活用して、多方面の経験を広げていきます。 4. 職員にとって働く意義を持てるよう業務改善ICT化を進め、研修は実践に役立つ内容を取り入れて進めます。 人材育成には、web研修を

取り入れ職員で学びを共有できるように進めます。 5. 黒松内町、小学校等関係機関と連携し、「架け橋プログラム」に取り組み、小学校探検等を計画し身近に小学校が感じられるよう交流を持ち、スモールステップを目指します。

6. 定着している「社会貢献10項目」は園の視点とリンクしながら推進します。

7. 園に併設している「支援センター・一時預かりさんさん」は、子育て支援の役割を果たせるように機関と連携を深め、親しんで利用頂けるよう努めます。 利用頂けるよう努めます。 子育て支援の役割を果たせるように機関と連携を深め、



「利用してよかった、働いてよかったと思われる施設づくり」 ～養護老人ホーム 緑ヶ丘老人ホーム～

施設全体の長所や機能を最大限に生かした運営を進めるため、職員が一致団結して取り組んでまいります。職員は誇りとやりがいを持って働き、常に利用者の一人ひとりを大切に、利用者の笑顔のために、安心安全で良質なサービスの提供に努めます。

昨年10月から町より介護予防教室（まる元体操）運営業務を受託し、本年4月からは地域包括支援センターの運営業務を受託しました。黒松内町、各関係機関としっかりと連携を取り実施していきます。

養護部門については今後の運営体制に向け準備を進めていきます。在宅福祉部門の通所事業、居宅支援事業においては、厳しい経営状況となっており、稼働率の向上へむけて、関係機関との連携の強化、利用者確保の取り組みを積極的に行ってまいります。拠点全体として地域からの一層の信用と信頼を得て、黒松内町の高齢者福祉に貢献できるような日々研鑽に努めます。

◎今年度の重点目標

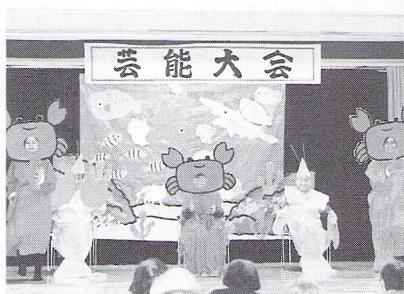
1、今年度の運営体制に向けての準備、在宅部門の利用者確保、稼働率の向上に努める。
2、施設全体におけるサービスの質の向上への取り組みに努める。

3、職員の円滑なコミュニケーション、チームの絆、繋がりを大切に施設形成に努める。

4、職員一人ひとりが、組織の活性化と経営に対する意識を持ち、組織機能の評価、運営、コスト等を見直し、改善に努める。
5、感染症対策を徹底し、まん延及び拡大防止に努める。

6、地域貢献事業を継続し、社会との関りを重視した事業運営に努める。

7、法人内高齢者施設連携に向けた効果的な運営の実施に努める。



「職員が一つになり信頼される施設を目指す」 ～特別養護老人ホーム 緑ヶ丘ハイツ～

近隣町村の人口統計や人材不足・様々な要因を、ここ数年施設全体で改善出来るよう取り組んできましたが、状況が好転しない事により、将来を見据え法人執行部との緻密な検討の結果、

入所定員80名を40名に減員し、フロアも2つを1つとし、そのことに伴い職員も適正配置に配分。安定経営に向け舵をとりながらスタートする事になります。各職員は、事業方針にもある通り一致団結し安心安全を追求し、やりがいを求め一歩ずつ前進し、活気のある職場風土を目指します。また、利用者確保に努め、高い稼働率をキープするとともにコスト管理の徹底を心掛け、感染症対策の強化を図りながら運営理念に基づいた事業の執行に努めていきます。

◎今年度の重点目標

(1)新運営スタイルについて、円滑に進捗出来るよう努めます。
(2)利用者の視点に立って考え、行動できるような努め、一人ひとりが描いている施設像を追い求めるよう努めます。
(3)自分自身

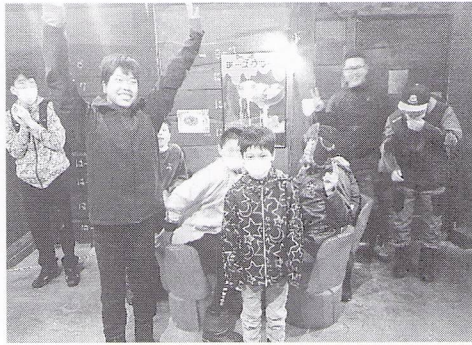


が、常に成長していく事に努力を惜しまず、専門職（プロ）としての役割を全うし、利用者の生活を支えることに努めます。
(4)アセスメントに基づく、根拠と納得のある介護を展開できるように努めます。
(5)良好なコミュニケーションがとれる人材を目指し、感情で周囲を混乱させないよう努めます。
(6)日々、振り返りを行い前進し、共通の考え、価値観を持つて業務することと努めます。
(7)組織のルール、就業のルールに対して共通認識を持ち、運営理念に基づいた事業に努めます。

「一致団結／みんなが主役!! 変えていこう未来のために」 ～障がい児入所施設 しりべし学園～

【しりべし学園】

障害児入所施設の担うべき機能として個々の発達段階や特性を理解し、それに応じた支援を提供できるような職員の専門性を高め、支援の充実に努めます。また、特に行動特性の強い利用者の支援においては「困った子」ではなく「困っている子」として受け止め、その上で環境を整



え不安の解消と安定を図り、専門的支援の提供に努めます。さらに、利用者個々にあった進路を見出す事ができるよう、学校や児童相談所など関係機関との連携を強化します。

感染症対策についても引き続き徹底しながら、利用者の声に

耳を傾け、行事や余暇活動の充実を図ります。

人材確保については、実習生やインターンシップなどを積極的に受け入れるとともに、法人本部人事部と協力し、良いチームワークの中で職員の確保、定着、育成に努めます。

【南後志児童デイサービス センター】

子どもの発達の過程や特性などに応じた発達上のニーズを丁寧に理解したうえで支援を提供することを基本とし、そのために「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「の5領域を踏まえたアセスメントを行い、関係機関や保護者と情報を共有し、子どもに応じた遊びなどの活動の中でより充実した療育を行っていきます。

また、保護者との良好な関係を構築できるよう職員間で相談しやすい体制を整えていきます。さらに、他部門との連携を強化し、利用者支援の充実に努めます。

「一致団結／みんなが主役!! 変えていこう未来のために」 ～障がい者支援施設 しりべし学園成人寮～

【しりべし学園成人寮】

本年度は施設入所57名、生活介護52名（通所3名含む）でのスタートとなります。利用者の意思決定の支援・権利擁護の遵守など、虐待の根絶に重点を置き、各事業所と協力しながら不適切な支援・虐待「0」に向けて一層力を入れて取り組みます。利用者の高齢化に伴う障がいの

重度化は著しく、健康管理、健診の重要性に鑑み、障がいのある方々への健診体制の拡充と職員の介護技術の習得を目指していきます。感染予防対策は基本的な対策を実施し、生活空間の衛生環境にも配慮し健康に生活できるように支援します。

【しりべしワークセンター セオス】

高齢化、重度化による高齢者施設への移行等により、本年度は25名でのスタートとなります。利用者の高齢化により、作業効率の低下が見られるため、作業内容の細分化を進め、利用者の状況に応じた作業の提供を図ります。花の無料配布などの地域

貢献事業3事業については継続して実施します。

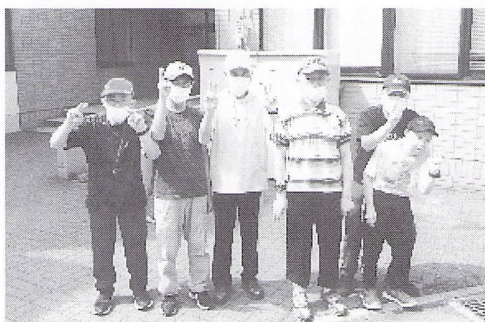
【いずみホーム】

高齢者施設移行に伴い、本年度は19名でのスタートとなります。利用者も高齢化しておりますが暮らしやすい環境整備を進めていきます。また、今後のグループホームの在り方等、継続的に協議していきます。

【黒松内つくし園特定相談支援事業所】

基本的にしりべし学園成人寮及び後志リハビリセンター利用者の計画相談を実施していきます。年2回のモニタリングを確実に実施し、

利用者
の意向
を反映
したサ
ービス
等利用
計画書
作成に
努めま
す。



『互いに寄り添い 笑顔あふれる施設づくり』 『障がい者支援施設 後志リハビリセンター』

利用者が自分らしく、快適かつ安心で安全に生活を送ることは、施設の根幹をなすものであり、そのためには接遇マナーの5原則（挨拶・言葉遣い・身だしなみ・表情・態度）の徹底はもとより、利用者個々の尊厳を守り、その人の特性を理解し、生活様式に寄り添った支援の提供に努めることが重要です。

昨今の社会構造の変化により、利用者の確保が困難となってきた折、健全な施設運営に資するため、今年度においては、医療機関や自治体等関係機関への働きかけや情報収集を強化し、安定的な利用者の確保に努めるとともに、利用者の高齢化・重度化傾向が顕著になってきていることから、人員体制加算「1.5・1」を維持し、手厚い（分厚い）支援を継続します。

また、人材の育成や定着を図るため、施設内研修はもとより、外部研修の積極的な受講を奨励し、支援業務に係る知見や技術の向上を図るとともに、ハラスメントの防止やコンプライアンス

スの遵守など、働きやすい職場環境づくりを進めます。



これらのことから、次の4点を今年度の重点目標とし、職員一同、目標達成のため邁進して参ります。

- 1 利用者・待機者の確保及び関係機関からの情報収集
- 2 利用者の特性の理解・介護技術の向上・虐待等の根絶
- 3 利用者の意思に基づく個別支援計画の策定・生きがい活動・口腔ケア・嚥下訓練・機能訓練・栄養管理等
- 4 特定技能職員の計画的な育成及び日常生活サポート

「開設25周年を迎え皆様に感謝！」 『介護老人保健施設 湯の里・黒松内』

介護老人保健施設湯の里・黒松内は、老健施設の機能としてリハビリテーションの提供により自宅での生活を目指す施設です。開設25周年を迎え当施設を取り巻く社会的な環境が大きく変化してきております。本来の在宅復帰を目指す方の利用減少、逆に長期入所を希望する方が多くなってきたという実情であります。更には2025年問題にあるように「超高齢社会」に入ると言われており今まで以上に複雑なケースが多くしつかりと個々に適した柔軟な対応を進めます。

開設25年を迎え、これまでの利用者支援を振り返り利用される皆さん一人ひとりが心豊かで快適な生活を営めるように利用者さんの意向及び人格を尊重し想いに添えるよう専門職と一緒に考え必要な支援を進めて参ります。

また刻々と変化する介護保険制度に対応し、適正なサービスを提供できるよう努力して参ります。近年、物価の高騰を始め

とする様々なコストが増加しており厳しい運営状況にあります。この状況を打破すべく社会資源としての使命をしっかりと確立し科学的介護（LIFE）の作成、ICT機器の活用による業務の効率化と事業の展開を図って参ります。

地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、市町村や保健・医療機関、関係、その他関係諸機関との密接な連携を図ります。さらに利用者及び家族等からのいかなる相談にも親切・丁寧に対応し、皆様に信頼されるよう努力致します。



「相手に伺う」ミニセッション」season2」ご利用者が 主役のケアを『あたりまえに』老人福祉施設慶和園」

昨年度は、「ご利用者が主役となるケア」不適切なケアの撲滅」を最優先事項として運営を進め、理念研修や虐待予防研修、各種グループワーク研修を通じて自身のケアの振り返りを重ね、ご利用者への権利擁護の意識を高めることができました。

特に、外部講師を招き年3回行った「動き出しはご本人から実践研修会」は、これまでのご利用者のかかわり方の見直しを図り、ご本人が主役となるケアの実践を進めることができました。

新年度において、この取り組みを継続させ、ご利用



「動き出しはご本人から実践研修会」

者が主役となるケア」を常態化させていきます。

また、昨年3月に実施したユニット編制替えは、各スタッフの視野を広める（良いものを受け入れ、悪しきものを改善する）良い機会となりました。今年度は、この取り組みを更に推進するべく、各ペアユニットにユニットリーダー及びサブリーダーを配置。ご利用者・ご家族・スタッフとの強い信頼関係を構築するユニット運営を展開し組織強化を図ります。

一方で近年、養護・特養共に入所稼働率の減少（養護89%・特養92%）が顕著となり、食料費、燃料費等の物価高騰と設備機器の更新事業とも相まって、経営状況は大変厳しい時期に入っています。

この課題解決のための対策として新年度から養護・特養の入所相談受付機能の一本化を図り、特養における空床型短期入所事業を活用するなど柔軟かつスピーディな対応を推進。地域関係機関との連携強化（定期的に空

床情報を共有・入所依頼から入所までの期間を短縮化など）により利用稼働率95%を目指し、健全経営につなげていきます。

◎今年度の重点目標

①ご利用者・ご家族の利用満足度の向上

・『動き出しはご本人から』の取り組みを継続し、ご利用者の一人ひとりと丁寧にかかわることを常態化させます。

・特養各ペアユニットにユニットリーダー（副主任）及びユニットサブリーダーを配置することでチーム力を強化します。

・当園を会場に介護職員実務者研修を開催し、福祉職として「自ら学ぶ」組織風土の醸成を図ります。

②地域における役割を具現化

・町内のセーフティネット施設として「看取りケア」「地域生活支援拠点事業」の取り組みを推進すると共に『地域連携推進会議』（町内福祉関係機関との連絡会議）を継続的に開催し、地域ニーズを踏まえた地域におけるバックアップ機能を強化します。

・京極町とも連携し、福祉避難所としての環境整備（エアコン

設置）やBCP（防災・感染症）訓練

を行

い、

万

の

き

備

た

制

く

り

を

行

い

ま

す。

・

ご

利用

者

が

地

域

住

民

と

の

集

う

場

と



地域ニーズを確認の「地域連携推進会議」

定期的に地域交流ホールを会場とし、移動喫茶（俱知安地区事業所対応）を開催します。

③柔軟な事業運営と経営の健全化

・低迷している稼働率の改善を図り、稼働率95%を目指します。

・働きやすい環境づくりの取り組みを継続し、柔軟な勤務体制の工夫（週休3日制の導入検討）やカスタマーハラスメント対策

の取り組みなど、心理的安全性の高い体制づくりを進めます。

「たくさんの想いに応えるため、俱知安地区は 一歩踏み出す」 「俱知安就労支援事業所」

俱知安地区は、昨年度に地区内就労継続支援B型事業所の統廃合を行い、就労継続支援B型事業所「羊蹄セルプ」へ事業の一本化を行いました。が、「人と人をつなぐ陽だまり」のご利用者に安心して通所して頂くため1事業所でありながら2分化した運営を行っておりまして。また、これまでそれぞれが担っていた役



割や利用対象者など決めて交わることが無い真逆の事業所であったものを統合に伴い融合させたことで、それまで双方が担っていた事を一つの事業所で運営をしなければなりません。本年度は「真」の統合を行う年度として、「利用者」の新たな作業配置・「多種多様

な利用者の受け入れ」・「令和7年度工賃ランクの上昇」を目標と定め事業運営を行います。これは「新しい事業所創り」に等しいと考えることから、「今まで大切にしてきたこと」と、「これから必要とされること」を求められること」をしつかりと融合させた「新しい羊蹄セルプ」の創造を行います。

つぎに、共同生活援助事業所では現利用者数の半数である6名が羊蹄セルプへの通所を行っていることから、生活と通所を線で結び総合的な支援を提供できるよう羊蹄セルプとの体制の強化を行います。一般就労者についても、より自立した生活を行うことが出来る様、地域移行を目指した支援の提供を行います。また、生活の充実を図るため利用者のニーズに沿い生活の質の向上を目指します。当然ながらそれらを目指すためには、職員個々人の知識及び技術の向上が必要であり、つくしホームという1チームとしての意識を持ち運営を行います。

「入居者様の笑顔・喜び・生きがいのために」 「泊村老人ホーム」むつみ荘

アフターコロナのもと、昨年度もコロナやインフルエンザ等の感染症対策を行いながら、入居者様に安心して安全、かつ、快適に生活を送ってもらえるよう鋭意邁進しました。具体的には、入居者様の「暮らしの継続」をより一層確かにし、個別ケアの質の向上を図るため、日本ユニツトケア推進センターの支援のもと、ユニットリーダー研修実地研修施設を目指し、指定を受けることができました。さらには、

ICT機器の導入やWi-Fi環境の整備による業務の効率化・円滑化を進めるとともに、地域貢献の一環として、「配食サービス」を開始しました。残念ながらICT機器の導入は1年延期となりましたが、老朽劣化が懸念されていたWi-Fi環境を再整備し、業務改善並びに災害時に強い施設づくりを進めることができました。新年度においては、施設のケア方針として「その人の立場に立つて考え行動する」を掲げ、入居者様が自律した生活を送ることができるよう、職員一同、高齢者福祉に関する専

門知識や技術の向上に努めるとともに、ICT機器等の先端技術を導入することとしております。また、引き続き、施設の健全運営に資するため、高稼働率の維持や人財の確保・定着に努めるとともに、ユニットリーダー研修実地研修施設として、積極的な研修生の受入や配食サービスの継続など地域の一員として社会貢献活動を積極的に行います。

◎今年度の重点目標

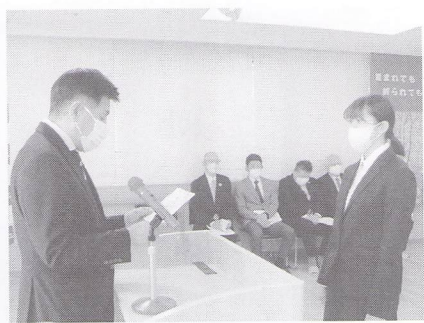
- (1) 入居者・家族との信頼関係の深化
- (2) 安全で安心な施設づくり
- (3) 健全な施設運営
- (4) 地域貢献推進への取組



以上を確実に実践し、「誰からも慕われ、地域に根差した施設づくり」を推進します。

新任職員が仲間入り 2025年度辞令交付式開催

新年度がスタートした4月1日、しりべし学園成人寮「地域交流スペースふらっと」において2025年度辞令交付式を開催しました。



辞令交付式に臨む新任職員10名と施設長2名、異動1名、昇進の課長1名に、大代理事長より一人ひとりに理事長から辞令手渡されまし



寺田杏

栄養士から法人職員としての誓いの言葉を述べましたⅡ写真Ⅱ。



法人役員及び施設長等の自己紹介の後、参加者全員による記念撮影を行いましたⅡ写真Ⅱ。

2025年度新任職員研修会

辞令交付式の後、新任職員及び2024年度に入職した職員を対象に、新任職員研修会を行いました。

新任職員研修では、従来2日間で行われていた内容を短縮して1日での実施となりました。創始者である元理事長・廣瀬

清蔵氏

や当法

人が設

立され

た経緯、

概要な

どが紹

介され

ました。

また、

将来的

ビジョ

ンや社

会福祉法人としての使命につい

て、倫理綱領の説明や、法人の

制度や取り組み、職場のルール、

職員としての心構え等の講義を

行いました。皆さん熱心に研修

を受けていましたⅡ写真Ⅱ。早

く職場

と仕事

に慣れ

て、法

人職員

として

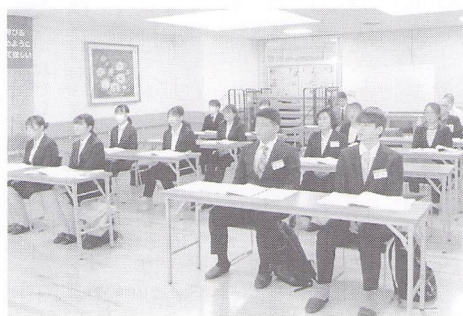
大いな

る活躍

を期待

してい

ます。



2025年度 新任職員研修会 研修プログラム一覧

※敬称略

・開会・オリエンテーション

①「社会福祉法人黒松内つくし園

2025年度指針・重点目標」

社会福祉法人黒松内つくし園

理事長 大代 貴輝

②「法人の歴史・今後のビジョン

社会福祉法人としての使命に

ついて」

社会福祉法人黒松内つくし園

監事補佐 武井 光秋

③「倫理綱領についての理解」

理事・

老人福祉施設慶和園施設長

澁谷 剛

④「法人職員としての心構え」

常務理事・

しりべし学園成人寮施設長

遊部 眞澄

⑤「地域住民としての心得」

黒松内町役場住民課

主査 蔵田 丈敏

主任 大石 敏彦

⑥「法人新任職員研修会、フオロ

ーアップ研修に向けて」

法人研修委員会

法人奨学資金贈呈式開催

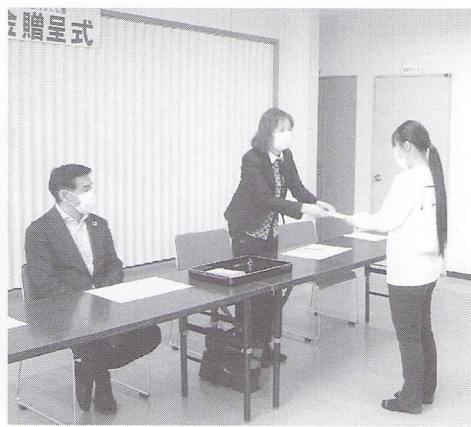
4月29日、黒松内つくし園の地域交流スペースで法人の奨学資金贈呈式が行われ、13名の高校生と専門学校生1名（つくし園児童13名）に、奨学金5万円を贈呈しました。贈呈式には法人奨学資金委員の松田順子委員長と大代理事長、遊部常務理事が出席しました。



はじめに大代理事長より、この奨学金誕生の経緯や歴史、奨学金の原資には多くの皆様のご厚志で賄われていることなどについて説明がありました。また、松田委員長からは受給者の皆さんに、心温まるメッセージが送

られました。

その後、松田委員長より受給者一人ひとりに奨学金が手渡され、声を掛けられました。最後に受給者を代表して高校3年生（女子）が感謝の言葉を述べました。



当法人の奨学金制度は昭和52年度に始まり、今年で49回目です。この奨学金は、法人の地域貢献事業として、これまでに延べ1,036名に総額3,305万円が支給されています。

奨学資金を寄付して下さった皆様に心より感謝申し上げます。また、当法人の社会貢献事業「奨学資金制度」に賛同していただける方のご協力をお願い致します。

「ようこそほいくえんへ！」 認定こども園黒松内保育園

4月5日に第59回入園・進級式を行いました。今年度は新園児が5名、昨年度途中入所の園児が8名、そして保護者の方と来賓の方も参加されて春らしくあたたかな式となりました。はじめの保育園に緊張する子、お父さんお母さんと一緒にたくさん笑顔を見せてくれる子とさまざまな表情が見られました。



式の最中、1番小さなひよこ組の子ども達は、保護者の膝に座って安心したのか、だんだんと緊張がほぐれチヨロチヨロと歩きだすかわいらしい姿もありました。大きなクラスになると自分のイスにちよこんと座り、担任の先生に名前を呼ばれると「はい！」と元気に返事ができ

ていました。令和7年度は全園児46名でスタートします。保護者と地域と連携しながら子ども達の成長をしっかりと見守り、支えていきたいと思えます。



法人会務の運営状況 (2025年1～4月開催分)

- ◆ 1月6日 黒松内町新年交礼会
- ◆ 1月14日 施設長・副施設長会議
- ◆ 1月22日 監査法人期中往査→24日
- ◆ 1月23日 みなし理事会
- ◆ 2月6日 2025年度人事審査委員会
→10日
- ◆ 2月11日 施設長・副施設長会議
- ◆ 2月12日 内部監査（現地訪問）→21日
- ◆ 2月13日 黒松内つくし園運営指導監査
- ◆ 2月14日 苦情解決委員会
- ◆ 2月18日 みなし理事会
- ◆ 2月25日 施設長・副施設長会議（臨時）
- ◆ 2月26日 第443回理事会
- ◆ 2月27日 資金収支ヒアリング→3月4日
- ◆ 3月3日 黒松内町意見交換会
- ◆ 3月10日 北海道福祉施設士会ブロックセミナー
- ◆ 3月11日 施設長・副施設長会議
- ◆ 3月17日 みなし理事会
- ◆ 3月19日 監査法人期中往査→21日
- ◆ 3月27日 第444回理事会
- ◆ 4月1日 新任職員研修会
- ◆ 4月15日 施設長・副施設長会議
- ◆ 4月15日 苦情解決委員会
- ◆ 4月29日 法人奨学金贈呈式

ご厚志に心から感謝申し上げます

（令和6年12月16日から令和7年3月31日まで）

敬称は略させていただきます

お詫びとご案内

社会福祉法人黒松内つくし園会報「ブナの里」では、これまで法人へのご厚志をいただきました皆様のご芳名を掲載してきましたが、個人情報保護の観点から、個人の方からのご厚志の紙面掲載を控えさせていただいております。

当法人へのご厚志に感謝申し上げますとともに、どうぞご理解のほどよろしくお願い致します。

黒松内つくし園後援会、2024年度黒松内保育園卒園児保護者一同、(有)小間旅館、(有)名取商店、南後志法人会黒松内地区会（以上黒松内町）、(有)光銭商店

（長万部町）、京

極町社会

福祉協議

会（京極

町）、(株)

RHYT

HMB

EA TS

（倶知安

町）、北

海道共同

募金（札

幌市）、

一円募金



黒松内町歌才のブナの葉

編集後記

2025年度が始まり、今年度もこれから2024年度決算業務と会報作成・広報委員会活動がスタートします。2024年度決算は、会計システムの一本化がほぼ完了し、決算書・附属明細書の作成も法人本部集中化で行うことができます。これから6月の決算承認まで、しっかりと進めていきたいと思っています。

物価高騰が著しく、施設経営も厳しい状況ですが、一般家庭でも大変です。ガソリンは昔より100円以上も高くなり180円！コメも前の10キロの値段が5キロです。野菜も肉も食料品全般で高く、消耗品等も同じで、財布がどんどん寂しくなります。国の対策が必要ですが、デフレが長く続き安いものに慣れすぎているのと、海外の物価水準を考えるとある程度は仕方ないのでしょうか。

春だというのに、黒松内町・施設ではインフルエンザや胃腸炎などの感染症が蔓延しています。季節など関係なく、まだまだ福祉施設では感染対策に追われています。

本年度も各施設広報委員が施設広報誌の充実に懸命取り組みます。法人ホームページも、より良い情報発信を行っていきたいと思います。当法人会報「ブナの里」と広報委員会をどうぞよろしくお願い致します。

岡田

「北海道働きやすい介護の職場」の認証を受けました

このほど当法人では、北海道

取りました。

が推進する北海道介護人材確保・育成認証制度において、各介護事業所がその基準を満たし、「働きやすい介護の職場」認証を受けました。北海道が介護職場への人材の参入と定着の促進を図ることを目的とし、介護事業所における職員の人材育成や就労環境等の改善につながる取り組みについて、基準を満たした介護事業所を認証するもので、本年3月28日付で認証書を受け

当法人では、職員の人材育成と職員待遇・職場環境改善の様々な取り組みを進めており、今回の認証は、これらの努力が北海道に認められたものと考えております。これからも職員の育成・定着と働きやすい職場づくりを進め、介護サービスの向上へ向けてまいります。



○認証された事業所

- ・緑ヶ丘老人ホーム（養護ホーム）
- ・緑ヶ丘ハイツ（特養） ・湯の里・黒松内（老健）
- ・ユニットケア慶和園（特養） ・慶和園（養護ホーム）
- ・泊村特別養護老人ホームむつみ荘

北海道では、「多様な人材の活躍」、「就業環境の改善」、「生産性の向上」に積極的に取り組む企業を認定しています。当法人では、2022年に当制度に申請し、2024年11月には「ゴールド認定」をいただきました。北海道の中でゴールド認定企業は13社で、社会福祉法人では当法人が初めての認定となりました。

働きやすい介護の職場認定と合わせて、これまでの当法人の様々な取り組みが評価され、大変光栄であるとともに、これからも職員の待遇改善や働きやすい職場づくりをさらに推進してまいります。



「北海道働き方改革推進企業」ゴールド認定

法人会報「ブナの里」第148号

発行年月日 令和7(2025)年4月30日発行
 発行 者 社会福祉法人 黒松内つくし園
 発行責任者 法人会報ブナの里広報委員会

社会福祉法人 黒松内つくし園

〒048-0101 北海道寿都郡黒松内町字黒松内562番地1

電話: 0136(77)2833 FAX: 0136(75)7211

E-Mail: honbu1@viola.ocn.ne.jp

URL: <https://tsukushien.or.jp>

